

第3章 ビジョンの基本的な視点

本ビジョンでは、以下の視点から基本方針と取組みの方向性を検討しました。

1. 子どもの最善の利益を尊重する視点

子どもは、基本的人権を持つ一人の人間として尊ばれ、社会全体から支援を受けながら自らも社会の一員として自立や成長を遂げていくことが必要です。そのために、幼児期の人格形成を培う保育・幼児教育については、良質かつ適切な内容及び水準のものとなるように配慮し、子どもの健やかな成長と発達を保障するとともに、子どもの主体性を尊重し、『子どもの想い』に寄り添いながら「児童の権利に関する条約」に定められている「児童の最善の利益」が実現される社会を目指し、取組みを進めます。

2. バックキャストの視点

バックキャストとは、将来的な課題や目標を起点として現在を振り返り、今何をすべきかを考える未来起点の発想法です。

2040（令和22）年頃を展望すると、少子化のさらなる進行・人口縮減・インフラの老朽化など様々な変化や具体的な課題も見えてきており、これらの課題の克服のためには、現時点から取り組むべき方策を整理するバックキャストの視点が重要となってきます。

また、保育・幼児教育においては、小学校教育への円滑な接続のため、幼児期の終わりを起点としたバックキャストの視点により、子ども一人ひとりの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる「学びの基盤づくり」を行っていく必要があります。

バックキャストの視点を取り入れ、持続可能な保育・幼児教育を実現し、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で示されている「幼児期までに育てほしい姿」を育てていく施策を検討します。

3. SDGs の視点

SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015（平成27）年にニューヨーク国連本部の「国連持続可能な開発サミット」において採択された国際社会の総合的な目標であり、17のゴール（目標）から構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現のために先進国も途上国もすべての国が関わって解決していくものです。本市では、2019（令和元）年7月1日、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組みを行う都市として、県内で初めて「SDGs未来都市」に選ばれました。

また、選定都市の中でも特に先導的な取組みであって、多様なステークホルダー※との連携を通し、地域における自律的好循環が見込めるものとして、東北で初めて「自治体 SDGs モデル事業」にも選ばれました。今後も、将来世代につなぐ持続可能なまちづくりを進めるため、保育・幼児教育についても SDGs の視点を取入れます。

※ 企業などの組織が活動を行うことで影響を受ける利害関係者のこと

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4. セーフコミュニティの視点

セーフコミュニティとは、「けがや事故などは偶然の結果ではなく、原因を究明することで予防することができる」という基本理念に基づいて、地域全体が協働でけがや事故の予防活動など、安全・安心の取組みを行っている地域のことです。

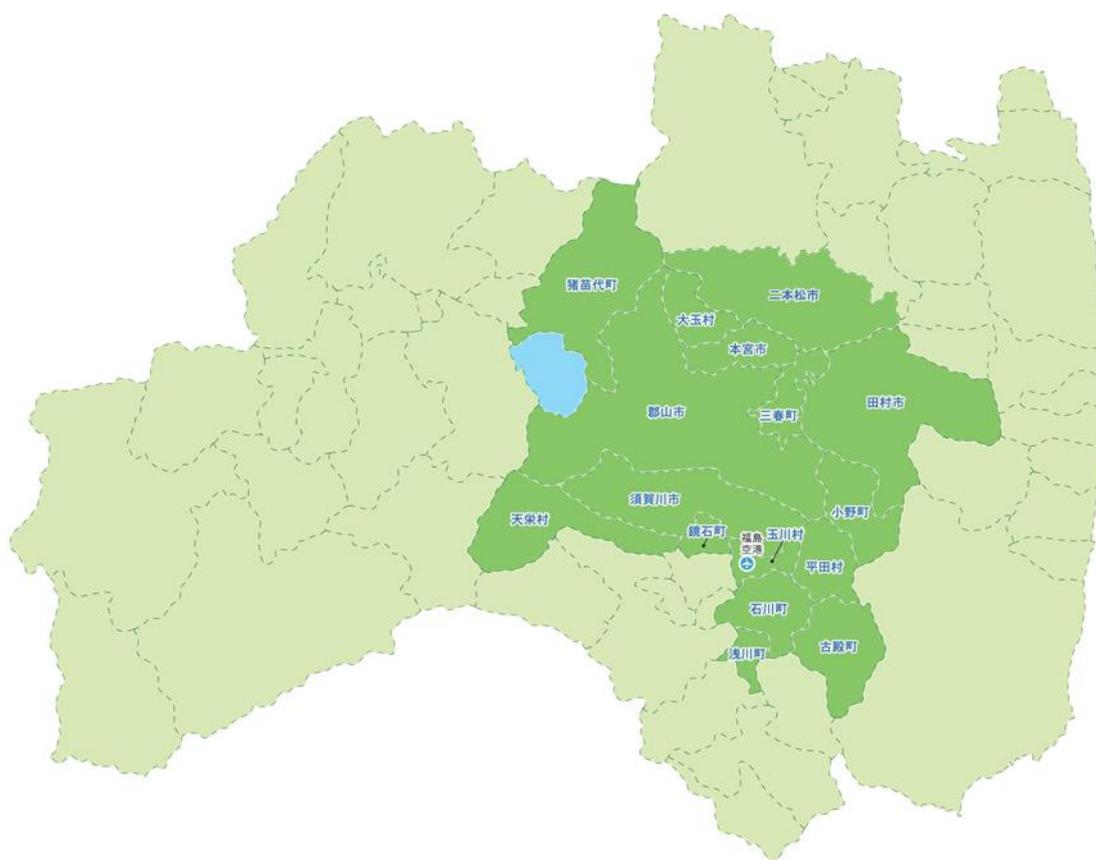
本市では、東日本大震災からの復興により、震災前の快適で暮らしやすいまちを取り戻すだけでなく、より一層の安全と安心に包まれたまちづくりを加速させるため、2014（平成 26）年、WHO（世界保健機関）が推奨するセーフコミュニティの国際認証取得を目指して活動を開始し、2018（平成 30）年 2 月 2 日に国内 15 番目の国際認証都市となりました。セーフコミュニティ活動は、さまざまなデータの分析により見えてくる地域の課題を解決するために、町内会をはじめとする地域団体、企業、行政などがそれぞれ行っている安全・安心の取組みを、分野を越えて実施することで、より有効に展開することができます。また、けがや事故の減少により、市民の誰もが求める「安全・安心」の向上や、地域住民、関係機関、各種団体と行政が協働することによる情報や連帯意識の共有、国際基準による安全・安心の取組みを行う自治体としての地域イメージの向上が期待されます。

本市の保育・幼児教育においても、本市の未来をつくる主役である児童の安全・安心の確保が重要であることから、この視点を取入れます。

5. こおりやま広域連携中枢都市圏の視点

本市では、16市町村で連携してこおりやま広域連携中枢都市圏を形成し、構成する市町村が自律的にまちづくりに資する個別的事業連携を進め、お互いの強みをいかした「広め合う、高め合う、助け合う」関係の構築を推進するとともに、持続可能な圏域形成を目指しています。

従来から、保護者の就労環境などから市に居住する児童が他の市町村にある保育所などを利用でき、または他の市町村に居住する児童が市の保育所などを利用できる広域入所などを実施しており、このような助け合う取組みを引続き基本的視点として取入れることで、地域の将来を見据えた施策を展開します。



こおりやま広域圏構成市町村

郡山市・須賀川市・二本松市・田村市・本宮市・大玉村・鏡石町・天栄村・猪苗代町・石川町・玉川村・平田村・浅川町・古殿町・三春町・小野町
(2022(令和4)年4月から磐梯町参加予定)